

# ナガサキピースミュージアムにて 公害資料館ネットワークの 企画展示とトークイベント開催

2020年12月、ナガサキピースミュージアムにおいて、  
「影、光る—全国公害資料館からのメッセージ」と題したパネル展と、  
【クロストーク】“ナガサキピースミュージアム × 公害資料館”が開催されました。

(主催：公害資料館連携フォーラム in 長崎実行委員会、共催：公害資料館ネットワーク)

## 【クロストーク】“ナガサキピースミュージアム × 公害資料館”

クロストークは、12月17日にナガサキピースミュージアムを会場に、大串秀人さん(ナガサキピースミュージアム)と林美帆さん(あおぞら財団、公害資料館ネットワーク)をゲストとして、友澤悠季さん(長崎大学環境科学部)の進行で行いました。現地参加9名、オンライン参加22名の計31名の参加があり、公害資料館ネットワークとしては、初めての会場とオンラインのハイブリットで開催しました。

### はじめに 友澤 悠季さん

一般に公害は「高度成長の影」とされてきました。しかし深刻な被害を経験しながらも、そこから何とか立ち上がってきた人々の歴史があります。それらを全て影と扱うのはあまりにも勿体ない。人々の取り組みの中には未来を照らす光があると感じてきたので、「影、光る」とタイトルを付けました。

長崎は、戦争による被害、原爆被害だけではなく、現在進行形のカネミ油症、また炭鉱労働や建設労働による塵肺、アスベスト労災など広い意味で公害ととらえうる被害があります。

来年、2021年に長崎にて公害資料館連携フォーラムを開催する予定ですが、そのプレイベントとして、今回クロストークとパネル展示会を企画しました。これらがきっかけとなり、平和で持続可能な社会のあり方を考える人々同士が出会う機会になればと思っています。

### トーク1 大串 秀人さん

ナガサキピースミュージアムは、NPO ナガサキピースオフィスの火運動という市民団体が建設して運営しています。長崎市街地の南部、グラバー園や大浦天主堂の登り口にあたる場所にあります。

長崎の戦争、原爆だけではなく、芸術文化、歴史、環境、国際交流などいろいろな分野の展示を中心に「未来の子どもたちに平和な地球を」をモットーに発信をおこなっていま

す。長崎出身の歌手、さだまさしの呼びかけから始まり、紆余曲折ありながら、多くの方々から募金をいただいて、完成し運営しています。

通常4週間に1回、展示替えをして、年間14、15回くらい何かしら展示を開催しています。今回の公害資料館ネットワークのパネル展示は、271回目の展示会になります。

他にも、中国の四川省の大地震を皮切りに、国内外の地震・災害時に募金を義援金として送ったり、2013年から毎年夏休みに、福島県南相馬市の小・中学生を長崎に招待して、五島列島で海水浴をしてもらったり、長崎市内の平和祈念式典に参加して平和学習するなどいろいろな活動をし



聞き手：友澤 悠季さん  
(長崎大学環境科学部准教授、  
公害資料館連携フォーラム  
in 長崎実行委員)



グラバー園から長崎港を臨む



長崎大学

### ナガサキピースミュージアム

〒850-0921 長崎県長崎市松が枝町 7-15  
〈開館時間〉午前9時30分～午後5時30分  
〈休館日〉毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)、  
年末年始(12/26～1/1)

ています。

活動の特徴としては、さだまさしというアーティストの発信力が大きく、コンサートツアーの会場に募金箱を置かせていただいたり、会員の協力が大きく関東や関西で独自のグループをつくり、ここの企画展の一部を東京や関西にもって行って開催するといったこともあります。ただ、会員さんも高齢化、会員数の減少が課題になっていますし、現在のコロナ禍の中で、さだまさしのコンサートも延期、規模・客数の縮小など、募金の方も集まりにくいといった状況があります。

ピースミュージアムは、さだまさしが発端であるように、原爆だ戦争だということに限らず、平和というのは自由に歌える、表現活動ができるということが平和ではないか、もう少し身近な平和を考えようということによってあります。企画に関しても、分野を問わず、いろいろな平和につながるようなものであれば、受け入れております。

小さな施設ですが、地域に根差した独特の展示ということで、地元の新新聞やニュースなどで取り上げられることも多いです。こうした活動を通じて、日常生活の中でふと平和のことを考える場を提供するというコンセプトでやっています。

さだまさしのつながりで、立ち上げ時から長崎放送のOB・OGが多く関わっていて、彼らと私も市職員の時から付き合いがあったので、そのつながりで退職してから携わっています。

### トーク2 林 美帆さん

公害資料館というのは、全国にいろいろあります。公立であったり、民間や大学にもあります。

私の所属する、大阪・西淀川のおおぞら財団では、2006年に資料館をつくりましたが、西淀川の公害のことだけを伝えていても、なかなか広がらないということがありました。

当時、高田研さん(おおぞら財団役員、都留文科大学教授)から、「全国の公害の『今』がわからないと、教育にはつながっていかないんじゃないか」と強く言っていただき、大学生と一緒に各地の公害地域を回るスタディツアーや、裁判の資料を中心に各地の運動資料の所在調査や、WEBサイト「記録で見る大気汚染と裁判」(環境再生保全機構)を作成したりなど、いろいろ呼びかけていきました。

そんな中、2013年に環境省の協働取組のモデル事業が公募され、これを機に公害資料館ネットワークをつくらうと呼びかけて、ネットワークをつくり8年目になりました。

毎年1回、フォーラムを開催して、皆が集まって学ぶということずっと続けてきました。行くときよくわかるんですが、自分のところ以外、他の地域の公害がどうなっているかわからなかったですね。集まって学んで、衝撃を受けるということを皆が経験して、考えていききっかけ、場をつくっていくことを続けてきました。

今年は、残念ながら開催できなかったのですが、プレ企画という形で、公害資料館ネットワークの共通展示パネルの展示を長崎でさせていただくことになりました。



林 美帆さん  
(公益財団法人 公害地域再生センター  
〔あおぞら財団〕 研究員、  
公害資料館ネットワーク幹事)



大串 秀人さん  
(ナガサキピース  
ミュージアム理事)